

## 親水公園における擬木の適正利用に関する研究

## A study on the proper use of the tree of fake in the water park

○田島実季<sup>1</sup>, 桜井慎一<sup>2</sup>\*Miki Tajima<sup>1</sup>, Shin-ichi Sakurai<sup>2</sup>

The waterfront space of various situations exist in Japan. Exterior wood of various fake has been constructed in their space. Good use as well as to grasp the exterior of construction cases of the tree of fake in Tokyo of the water park, divided the bad use, and elaboration what should be in how the future of the exterior of the tree of the imposter.

## 1. 研究背景および目的

水辺の空間には周辺環境との調和, 親水性の向上などを目的とし, ボードウォークや橋, ベンチといったエクステリアが多く存在する. 近年では, 資材として天然木ではなく, 耐久性に優れ維持管理が容易であり, 低コストで施工することができるメリットと天然木の持つ精神的要素を兼ね備えている擬木が多く採用されている(表-1). しかし, 筆者らの先行研究<sup>1)</sup>の結果, 擬木を用いて整備した親水公園の中には色彩や形状, 周辺環境との調和度合いなどの要素が違和感を与えているものがあることが明らかとなった.

そこで本研究では, 擬木で整備された事例の比較考察を通じて違和感の少ない擬木の適性な利用方法について考究することを目的とする.

## 2. 研究方法

東京都内の親水公園全 21 か所(表-2)を対象とした現地調査によって水辺で擬木を用いた整備事例を収集し, 本稿ではそれらの中から違和感を強く感じる使われ方について考察するものである.

## 3. 研究背景および目的

## (1) 素材

21 か所の親水公園を調査した結果, 16 か所の親水公園で擬木を用いたエクステリアが施工されていた. その中でもプラスチック製のもの(写真-1), コンクリート製のもの(写真-2)が最も多く見受けられた. 写真-1の素材は光沢感が強いので周辺環境が擬木と類似した色彩でないと人工的な印象を与えてしまう. 一方, 写真-2の素材は光沢感が無く, 色彩も自然のものに近い. しかし, 過剰に木材の断面を模した製作されており, 人工的な印象を与えている.

## (2) 形状

次に形状をみると, 天然木の要素から大きく異なる箇所が数多く見られた. 写真-2をみると土留め間が接合している. また平橋(写真-3)の各部材が長いうえ、

表-1 天然木と擬木の共通性と相違

| 物理的要素 (天然木のみ)            | 精神的要素 (天然木・擬木)              |
|--------------------------|-----------------------------|
| 衝撃吸収力がある<br>(足の負担が軽減される) | 色合いや手触りに温かみがある              |
| 水に濡れても滑りにくい              | 木目の規則正しさと不規則さのバランスが心地よさを与える |
| 吸音性能が高い                  | 周辺環境との調和                    |
| 熱伝導率が他の建材に比べ低い           |                             |

表-2 調査対象地

| 親水公園名     | 管理自治体   |
|-----------|---------|
| 大横川親水公園   | 墨田区・江東区 |
| 古石場川親水公園  | 江東区     |
| 横十間川親水公園  | 江東区     |
| 木場親水公園    | 江東区     |
| 夫婦橋親水公園   | 大田区     |
| 谷端川親水公園   | 豊島区     |
| 谷端川第二親水公園 | 豊島区     |
| 千川親水公園    | 豊島区     |
| 音無親水公園    | 北区      |
| 見沼代親水公園   | 荒川区     |
| 東和親水公園    | 葛飾区     |
| 曳船川親水公園   | 江戸川区    |
| 古川親水公園    | 江戸川区    |
| 小松川境川親水公園 | 江戸川区    |
| 一之江境川親水公園 | 江戸川区    |
| 新長島川親水公園  | 江戸川区    |
| 新左近川親水公園  | 江戸川区    |
| 呑川親水公園    | 世田谷区    |
| 丸子川親水公園   | 世田谷区    |
| 多摩川親水公園   | 府中市     |
| 大丸親水公園    | 稲城市     |

異なる部材が混雑しており, 天然木で施工を行うには難しい形状だ. 写真-4の平橋では長い丸太を半分に切ったような形状となっているが歩行部分には木目が全く表現されていない. これらのことから, 天然木で施工困難な表現をすることは, 周辺環境との調和を施すことはできないであろう.

## (3) 補修

擬木は同じ形状・色味を大量に造れることが1つのメリットである. しかし, 写真-5の防護柵では元々擬木で施工されているなかに部分的に鉄で補修されており, 元の形に復元されているとはいえない. また, 写真

1 : 日大理工・学部・海健

2 : 日大理工・教員・海健

-6 の防護柵では天然木で施工されているなかに部分的に擬木で補修された部分があり,太さ・色彩の表現が天然木との相違がみられる。

(4) 表面加工

親水空間にあるエクステリアは水に触れる可能性が高いことから安全面を考慮し滑り止め加工が施されているものが多い。一之江親水公園(写真-7・8)では擬木,木場公園(写真-9・10)では天然木が使用されている。天然木は色彩の経年変化があるため擬木との色彩に違いがあるものの,ごくわずかなものであり近くで見ても変わらない。そのため,塩害や腐食などが多い水辺空間では劣化の少ない擬木を用いることは有効的だと考える。

(5) 唐突な造形物

写真-11はコンクリートで施工されている道路にデッキがあり,断片的に施工されている。また,写真-12の手洗い場で用いられている色は周辺環境にある色味ではない。どちらの施工事例も風景から突出しており違和感を生んでいる。擬木は施工しやすく,他のエクステリア資材と違い温かみがあり,ナチュラルな風合いを醸し出すことができることから多用されるが周辺環境との調和を考え適切に利用しなければならない。

(6) 素材等の混在

写真-13の中には3種類の擬木が用いられている。色彩や素材感に統一感がなく周辺環境に調和しているとはいえない。写真-14は全く木材を使用しておらず,鉄製の資材で施工されているが,色彩が統一されていることで違和感がない。適切な設置がされていない場合,周辺環境に調和するための擬木の効果を持たないであろう。同公園内でも様々な素材を用いたエクステリアが存在する。周辺環境との調和を図るのであれば整備資材に関わらず統一性を持たせるのも1つの手法であると考えられる。

4. おわりに

今回の調査を行うにあたって事前に擬木メーカーから最新の擬木について説明を受けたが今回の調査地ではこれらの新しい製品は使用されていなかった。今後は収集した写真や今回得られた知見を元に被験者に対して写真を用いた景観分析を行い,施設利用者がより良いと感じる擬木の利用方法を提案していきたい。

【参考文献】

- 1) 田島実季, 桜井慎一, 秋本悠喜:「ウォーターフロントにおける擬木の適正利用に関する研究」,日本建築学会大会(関東),学術講演梗概集,論文番号 10017,2015年9月5日



写真-1 古川親水公園



写真-2 古川親水公園



写真-3 小松川境川親水公園



写真-4 大丸親水公園



写真-5 新左近川親水公園



写真-6 音無親水公園



写真-7 一之江境川親水公園



写真-8 一之江境川親水公園



写真-9 木場親水公園



写真-10 木場親水公園



写真-11 見沼代親水公園



写真-12 小松川境川親水公園



写真-13 古川親水公園



写真-14 横十間川親水公園